

自動車は生産、販売ともに大幅増加も増加

ア橋本健一郎氏リポート①

前月比〇・三%増と、四カ月連続の増加。

◆貿易関連指標



橋本健一郎氏

五月前半は、
四月の米消費
者物価指数
(CPI)が市
場予想を大き
く超えインフ

輸入 財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気鋼が七・六%減の三万九千五百三十t、スクランブルが一四四・六%増の四万五千一百一〇t。

輸入 ■前月の国内指標 四月伸縮品生産量は前月比三・二%減少の六万七千六百一トン。前年同月比では一三・二%増加し、四カ月連続増加。

日本電線工業会発表の出荷延率(推定)によると、銅電線出荷量は前年比三・六%増の五万四千五百tであった。

■国内概況まとめ

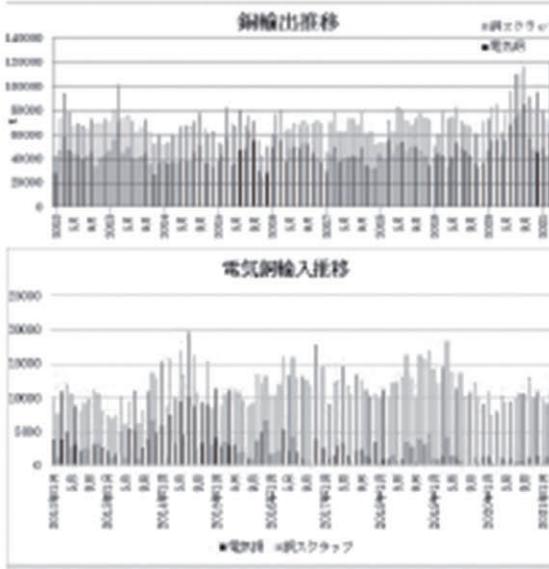
生産動態統計によると、四月の自動車生産台数は前年比六四・八%増の六十七万九千七百一十台。輸出は八〇・五%増。

【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると、五月の自動車販売台数(軽除く)は前年比三〇・九%増の一九万三千七百台。

【自動車生産台数】

生産動態統計によると、四月の自動車生産台数は前年比六四・八%増の六十七万九千七百一十台。輸出は八〇・五%増。



LME銅、今月も米経済、景気対策と中国の景気動向が力

(四面より続く)

【住宅着工戸数】

四月の新設住宅着工は、分譲住宅は減少したが、持家及び賃貸が増加したため、全体で前年同月比七・一%の増加となつた。また、季節調整済年率換算値では前月比〇・三%の増加となつた。

【伸銅品生産】

四月伸銅品生産量は前月比三・一%減少の六万七、六六一トン。前年同月比では一三・一%増加し、四カ月連続増加。黄銅板以外一三品目が前年同月実績を上回り、全般で回復基調が鮮明となつた。また、季節別品種別でみると、銅条は前年同月比一一・二%増と七カ月連続プラス。

同月では前回好調だった二〇一八年の実績を超えている。車載向けを含めて半導体ICの需要が好調である。ディスクリート(個別半導体)も回復ってきて、自動車の新車生産台数増加に近いところで推移している。

一部の情報において、銅条の需要に対し、国内の銅条生産が追い付かず、逼迫しているとの観測があるが、銅条の顧客からもそのような話は出ていないと否定した。黄銅棒は前年同月比一九・二%増加。三カ月連続のプラス。

住宅設備関連の国内需要が緩やかに回復し、リフォーム向けの需要が伸びている。リモートワークや外出の手控えが長期化することに伴い、在宅時間が長くなり、自宅の修繕が増えていることが背景にありそう。タッチレス水洗需要増加と設備用バルブも回復、自動車向けも好調。

【電線出荷】

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、総電線出荷量は前年比二・六%増の五万三千〇〇t。

【輸出】

電気機器出が七六・九%減の三万九、八五三t。鋼スクラップが一四四・六%増の四万五千八〇t。

【輸入】

電気機器が一二三四%増の三・六七一t、スクランブルが一四・八%増の一萬〇〇九四t。【見通し】

四月の自動車生産が六四・八%増。五月国内販売台数が前年比三〇・九%増。

生産急増は半導体不足の影響はないとの認識、販売も大幅増。

今後生産販売ともに増加していくか注視。

・四月伸銅品生産量は前月比三・一%減少の六万七、六六一トン。前年同月比では一三・一%増加し、四カ月連続増加。黄銅板以外一三品目が前年同月実績を上回り、全般で回復基調が鮮明となつた。

・日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、総電線出荷量は前年比三・六%増の五万四、三〇〇t。

このうち、国内二・一%増、輸出が三・六%増。内外需が揃って増加するのは久しぶりのこと。内外ともにプラスが続くか注視。

・銅輸出は、スクラップが外需旺盛に伴い増加。

・輸入は電気機器が内需旺盛から急増、スクランブルは内需回復から増加。

【スクラップ景況予想】

流通在庫は、銅建値が一八万円の高値安定

から一転、一三万円まで急落したタイミングで放出されたため、ある程度余裕あり。

需要面に関して、半導体不足に伴う自動車需要の減少は結果的ではなく、生産は急増傾向にある。しかし原料高値安定のため、メーカーはスポット買入に徹しており需給は安定気味。

【LME・為替予想】

今月も①米経済、景気対策と②中国の景気動向に左右される。

①に關しては

バイデン米政権は二十八日、六兆ドル(約六五九兆円)規模の予算案を発表したとから米景気は回復傾向が続くのではないか。経済や国民生活における連邦政府の役割を拡大させる方針で、インフラや公衆衛生、教育への支出を大幅に増やす一方、企業や富裕層への増税を求める内容となっている。

②に關しては

中国政府による原材料高騰への取り締まり強化策や、五月の中止の公式購買相当者景況指標が製造業で五一・〇と前月の五一・一からわずかに低下、原材料高騰が影響しているものと思われるところから、これ以上の高騰には心理的ブレークがあるのではないか?

「これらを踏まえた六月の鉄価格は一万一、〇〇〇ドル(セツル)との予想。

ドル円値は一〇七円一一〇円(TTM)台を予測。

銅建値に關しては一五万一一五万円程度と予測している。